

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 26 No 3

296号

平成30年 3月 5日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

開業 25 周年を迎えて!

院長

2月20日で、かわむらこどもクリニックが、お陰様で25年を迎えることが出来ました。これもひとえに、クリニックを支えてくれている患者さんのおかげです。

思い起こせば、今から25年前(1993年)開業しました。“この木、何の木...” 日立総合病院で新生児集中治療室を立ち上げ、がむしゃらに働きました。開業医だった父が亡くなりましたが、親不孝の息子は死後4年もたってやっと仙台に戻って来ました。突然落下傘部隊のように仙台に戻り地元の病院との繋がりも無いため、開業前はやっていけないのか不安な日々でした。開業当日は何とか10人を超えて、安心したことを懐かしく思い出されます。

新生児医療の経験、母親の喜びと悲しみの涙で育てられたことから生まれた開業理念「お母さんの不安・心配の解消」を掲げ、理念倒れにならないようにする毎日でした。理念を基にして診療に当たることは当然ですが、理念に花を咲かせるために様々な子育て支援活動に取り組んできました。

皆さんはすでに承知していることですが、最初の取組みは「クリニックNEWS」(1993年)で、蓄積した情報とインターネットの普及により、1996年「かわむらこどもクリニックHOME PAGE」を開設、珍しさ(日本ではじめての保護者向けのHP)もあり、次々メディアで評価され潮の流れに乗ったような勢いでアクセス数が増え、「小児科老舗HP」と称されるようになりました。その後、理念の展開とインターネットの双方向性という観点から医療相談を開始しました。当時は医療相談自体も珍しかったのも手伝い、相談数もうなぎ登りで眠れない夜が続きました。1998年からは育児サークル『お母さんクラブ』開催し、クリスマス会など楽しい時間を共有することもできました。2000年から患者さん専用アドレスを設定し、患者さんの感謝や熱い思いに触れることができる喜びも得ることができました。

かかりつけの患者さんとの関わり合いから生まれた心地よさは、さらなる理念の展開として医学生教育、学校医活動まで手を広げるモチベーションの源となりました。その後も、ブログ「こどもクリニック四方山話」、YouTube、Mail news、FaceBookページによる情報発信にも取り組み続けています。

理念に基づく活動でしたが、何度も途中で挫折

しそうになりました。しかしながら、25周年に寄せられたメッセージ、Facebookページへの「いいね!」、医療相談の“助かりました...”、かかりつけメールでの“ありがとう”、そして顔も知らないHPの読者など、ほんとうに多くの人たちに支えられてきました。

多くの方々の応援以外に、外部評価も継続するための原動力になりました。最も大きな評価は、「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」で、2011年11月総理官邸に招かれ連舫内閣府特命担当大臣から手渡しで表彰状を頂きました。さらには、2011年1月に「仙台市医師会学術奨励賞」を受賞しました。2015年には2500人が参加した日本外来小児科学会年次集会会長を務めました、このような外部からの評価もまた、継続する力の原動力です。

仙台小児科医会会長としての仕事も充実していました。2010年に会長に就任し、市民に見える小児科医の活動を目指し、年に一つは新しいことを産み出してきました。2011年髄膜炎関連ワクチン接種費用助成獲得できたのは、会長就任時に市役所に出向いて担当者からレクチャーを受けたことが始まりでした。担当者とのお互いを理解しての密な連携が功を奏し、2013年には水痘・おたふくワクチン公費助成を獲得することができました。他に「震災後の子どもの心ケア」、虐待対策として「訪問のすすめ方と医療連携マニュアル」・健診票取集方法変更、幼児健診への聴力項目の追加、「3歳児カリエスフリープロジェクト」などを実施し、現在は来年度に向けて「3歳児健診への新しい検尿導入」を予定しています。

忘れることが出来ないのは、2011年3月11日の東日本大震災です。クリニックの早期再開、Mail News 等地震直後から放射性物質の情報も発信しました。多くの患者さんからお見舞いメール、感謝の声を頂いたことは忘れられません。

読者やF.B.の友達は知っているはずですが、2014年仙台市医師会理事になってからの忙しさは半端ありません。「忙しさ自慢」という言葉を何度も目にしたに違いありません。年間200回近い会議などのイベントがある上、20回も出張に出かけています。しかし、それが苦痛であればやめればいわけです。初めての土地に赴き、多くの人とめぐり合うこと、それも息抜きであり、大事な宝と思っています。平成25年に発行した20周年記念紙にも書きましたが、「継続は力なり」です。

25年間続けられたのは、院長個人の力だけではなく、スタッフ、家族、そして多くの人たちに支えられたお陰です。今回も、多くのお母さんから投稿をいただきました。本当に、ありがとうございます。

これからも、もうひと踏ん張りしたいと思っています。



3月のお知らせ

・栄養育児相談

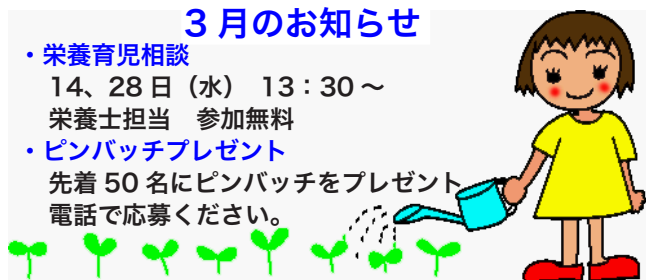
14、28日(水) 13:30~

栄養士担当 参加無料

・ピンパッチプレゼント

先着50名にピンパッチをプレゼント

電話で応募ください。



『子ども・子育て支援の都市仙台! ネウボラを仙台に!!!』

読者の広場

一面記事にも書きましたが、2月20日で開業25周年を迎えることができました。Mail News 会員からメールをもらいました。クリニック Facebook ページには、142人から「いいね！」があり、22件のコメントをもらいました。是非、Facebook も見てください。PCではスマホの絵文字が表現できないので、止むを得ず ☒ としてあります。☒ が何かと想像するのもいいかもしれません (笑)

おはようございます (^_^) 熊谷遥奈、彩奈、心奈の母です。いつも子供達、そして私もお世話になっております m(_ _) m 先日は、25周年記念ということでおめでとうありがとうございます!! ひとえに皆様のおかげと先生はおっしゃいますが、こちらからすると、25年変わらずあの場所でクリニックを続けて下さっていることに心から感謝感謝なのでございます (^_^) 子供達に何かあっても、クリニックがあるから大丈夫! 川村先生がいるから大丈夫! と広い心で構えていただけるのです (^_^) これからもどうぞお体に気を付けつつ、クリニックを長く長く続けていって下さい。そして、子供達だけでなく、これからも母達の心のお薬でいて下さることを切に願っています \ (^_^) / 先生、ならびにスタッフの皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます (^_^) 泉区 熊谷 琴美

このメールからは、医療機関と患者さんがお互い支え合っているということが読み取れます。これがコミュニケーションなのでしょう。「母達の心のお薬」という言葉は、当院の理念である「お母さんの不安・心配の解消」とぴったりです。ありがとうございました。

25周年おめでとうありがとうございます ☒ 19年通わせていただいています梨那、麗那の母です ☒ ってこだけ通っていて開業記念日を知らないなんて失礼ですよ…すいません ☒ 梨那は1歳から、麗那は生まれた時から診ていただきあつという間に17歳と20歳! この成長の中にかわむらこどもクリニックはなくてはならないものでした。体調を崩し不安を抱え病院に行き川村先生と話すとその不安は必ず解消されました。病院で何度泣いたか分かりません…この19年私の心の支えでもありました。(これからもですけど(笑)) 大きくなった今も体調を崩し病院 ☒ と思った時は先生の顔が浮かびます(笑) 小児科の範囲を越しても診ていただき感謝感謝です。まだまだ話したいことはたくさんありますが長〜くなってしまっているのでこの辺でやめておきます…私を含めまだまだお世話になるつもりでいますのでいつまでもお元気で30周年、50周年と目指して頑張ってください。25周年本当におめでとうありがとうございます。 宮城野区 佐藤 和美

開業が長くなると、クリニックが人生の一部となるかもしれません。クリニックの思い出が深い母親は、どんな母親なのでしょう。きっといい母親なのでしょう。それだけ、子どものことを大切に思い、心配しているからでしょうね。本当によく泣きましたね。これからもまだまだ泣くと思いますよ。泣けることも幸せの一つかもしれません。ありがとうございました。

いつもお世話になりまして本当にありがとうございます ☒ 遠藤萌、咲、翼の母です。川村先生、25周年おめでとうありがとうございます ☒ 私は川村先生に3人の子供達をいつも元気にして頂き、本当に感謝の気持ちでいっぱいです ☒ 川村先生にお世話になり、今年で23年が過ぎました。川村先生には23年間子供達を優しく、見守って頂き、そして母である私を安心、元気にして下さり、ありがとうございます ☒ 本当にいつも子供たちの具合悪い時に川村先生に受診して頂くまでは不安や心配な気持ちで行くのですが ☒ 川村先生に診て頂き、話を聞いてもらうと魔法にでもかかったかのように気持ちが楽になり安心して帰る事ができます。本当に川村先生が主治医でいて下さるのがどんなに心強く ☒ 大切なのか ☒ いつも感謝しております ☒ 去年は萌の事でたくさん助けを頂きましてありがとうございました ☒ 最近はいぶ落ち着いて萌なりに1歩ずつではありますが前に進めてきているように感じています。川村先生にお話したいなと思いつつ…もう少し前に進めた萌を…と思っているうちに今になってしまつて…すみません。萌も川村先生に話を聞いてもらえたから安心した ☒ と川村先生のところに行くと笑顔で帰って来ていました。本当にありがとうございます ☒ 咲は自分の子供も絶対川村先生に診てもらうと ☒ 決めているそうです。翼はいつも川村先生じゃなかったら俺ヤバイね ☒ と言いながら川村先生の素晴らしさに感動しております ☒ だいぶ長くなってしまいましたが ☒ 川村先生、これからも親子共々よろしくお願ひいたします ☒ スタッフの皆さまにもいつも本当にありがとうございます ☒ 開業25周年おめでとうありがとうございます ☒ 泉区 遠藤 恵



お付き合いも23年ですか。確かに子育てにはいろいろなことが起こりうるのです。その度に不安を募らせるのが、母親であり、「母親という生き物」(2017年5月号)なのです。その母親という生き物のおかげで、子どもたちは守られ、成長していくのです。3人ともこれからはしっかり任せてください。そして、このメールだけでなく、さりげない気遣い感謝しています。ありがとうございました。

かわむらこどもクリニック 川村先生・スタッフの皆様小さい頃からお世話になっている泉区紫山在住の遠藤萌です。母からメールでお祝いできると聞いたのですが、どのアドレスか分からず、ホームページを見てこちらにメールしてみました。間違えていたらすみません。開院25周年おめでとうございます。親子・兄弟共々本当にお世話になっています。お話ししている時はいつも楽しいです。ありがとうございます。これからもお体にお気をつけて頑張ってください。
泉区 遠藤 萌

お母さんとは別なメッセージありがとう。病院に来て話している時が楽しいってことは大事なことです。小児科はいつまでかかれるのと聞かれることがあるけど、自身がかかりたいと思うならいつまでも大丈夫。解決にはならないかもしれないけど、喋っていくだけで気持ちが軽くなるなら、いつでもどうぞ。

川村先生、開業25周年、おめでとうございます☑25年もの間、子ども達のために本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしく願いいたします☑かわむらこどもクリニックへの想い…。ずっと思っていたことがあります。私と、かわむらこどもクリニックとの出会いは、上の愛結が生まれたとき、12年半位前になります。当時東照宮近辺に住んでいたの、近所と言うことと、先輩ママからのクチコミで、健診や何かあれば通わせていただくようになりました。あれから12年半。かわむらこどもクリニックってすごいな。って思っていた事があります。それは、クリニックのスタッフさん達が変わってないことです☑それってすごいことだと思います☑スタッフの顔が変わらないって言うのは、私たち患者からすると、とても安心なことなんです。中米婦長さんをはじめ、看護師の佐藤さん、事務の福地さん、そして、以前は道端さん。いつ行っても同じスタッフさんで、毎回ほっとしました☑（川村先生すみません、皆さんのお名前間違えていたら申し訳ありません☑）道端さんがご結婚で退職してからは、新しい事務の方☑（ごめんなさい、お名前が思い出せません☑）以前からいるスタッフかのように違和感がなく、笑顔で出迎えてくれて嬉しい限りです☑いつも毎回同じ笑顔に出会えるって、本当に嬉しく安心なことですよ☑川村先生のお人柄だからこそスタッフさんの入れ替わりもなく、みなさんずっと一緒なんだろうな～と思ってました。福島在住の私の母が時々言ってました。「あそこの〇〇クリニックは、先生がやかましいのがな～、しょっちゅう看護師さんやら事務の方が変わるんだべ～」と福島弁で（笑）患者からすると、しょっちゅうスタッフさん達が変わると、どうしたのかな？って思っています☑実際私も婦人科に通っていたとき、ずいぶんコロコロとスタッフが変わるな…と思ったことがあります☑何でだろう…と。かわむらこどもクリニックのすごさ、この想いをメールする機会もなく、夫に言うぐらいで、ずっと一人思っていただけでしたが、25周年の想いって言うことでメールさせていただきました(^-^)/そして、12年間、私がお伺いしたときには、いつ行ってもスタッフ4人のみなさんが揃っていて、お休みしているっていう時にであったことはありません。本当に嬉しい、びっくりのかわむらこどもクリニックです(#^_^#)これからも、川村先生はじめ、皆さま、お身体にお気をつけて、私たちに笑顔をよろしく願いいたします☑ 青葉区 紺野 あけみ

スタッフが変わらないことは、患者さんにとっても、院長にとっても、とてもありがたいことです。困ったことに休みなさいといっても休まないこと、それが唯一の欠点です。東日本大震災では避難所から仕事に来てくれました。当院は患者さんの割にスタッフが少ないように思えるかもしれませんが。でも増やそうかといっても、コミュニケーションがしっかり取れていることが一番と首を縦に振りません。そんなスタッフの思いは次のページをみてくださいね。

いつも先生のSNSなどチェックしています(^)先生のインフルエンザの記事早速読みました！私のモヤモヤな気持ち先生に話そうと思いメールを打たせて頂きました。お世話になっていました、群馬県に住む井波柚子・楓月の母です。今日のご相談と言うより愚痴？になってしまいます。すみません（涙）先日こちらの幼稚園で年長さん最後のお遊戯会が開かれました。保護者も園児もこの日を楽しみにしてましたと思います。いざ園児が待機で入場されましたが、園児全員マスクをつけて登場！始めは風邪などの感染を防ぐ為に園側が考慮してるのかな？とばかり思っていました。ステージにて遊戯をする際はみんなもちろんマスクをはずし演技していましたが出番が終えて早々と保護者と退室する生徒がゾロゾロと…。あれ？可笑的いよね？と思っている中、お遊戯会が開きになる頃挨拶の中で『本日はインフルエンザのお子さまは演技が終え次第帰って頂きました～』と…(^_^;)インフルエンザの子供がお遊戯会に参加するとも聞いていないし、マスクをしていても感染を防げない、マスクをつける事の出来ない1歳の息子も一緒に居ました。もうビックリでした！案の定、娘はインフルエンザにかかってしまいました。また、園からの連絡にてインフルエンザのお子さんが続出し年長全クラス学級閉鎖になりました。幼稚園生活最後のお遊戯だったとは分からなくはないですが、もともとインフルエンザでお休みしていたお子さんを出演させなければ我が子もそうですが高熱で苦しむ子供達が防げたのではないのでしょうか…。もう、怒りを通り越し呆れてしまいました。誰かに聞いて欲しいと思い川村先生へ…長くなりすみませんでしたm(_)_m 群馬県 井波 裕己

最後はいつもの「読者の広場」です。2月号は辛口で書いたインフルエンザに関するものでした。その記事を読んだ転居した患者さんが、誰かに聞いて欲しいとメールをくれました。何より転居しても新聞を読んでくれ、そして頼りにしてくれていることです。これが「遠くへ行っても、かかりつけはいつまでもかかりつけ」の証明です。ありがとう。

スタッフから

開院 25 周年おめでとうございます。私もかわむらこどもクリニックに勤めて早いもので 24 年になります。沢山のこども達、そしてそのこども達を見守るすべての方々と出会い、いろいろな事を学ばせていただきました。数ヶ月会わないだけでこども達の言葉や行動共に成長している姿には、日々驚きと喜びの連続です。仕事をしながら、いつも癒されています。年齢と共に、まるで孫を見るお祖母ちゃんのように。私が 24 年もかわむらこどもクリニックに勤めてこれたのは、沢山の役職でご多忙でも、いつも患者さんのことを思い診療をされている先生！！尊敬と共に、感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちが、24 年という勤続年数になっていると思います。また、私には助け合える素晴らしい仲間がいます。自分でも嫌になるほどのわがままな私でも、いつも暖かく励まし助けてくれるスタッフ、この場をかりて「ありがとうございます」と言いたいと思います。人は一人では何もできません。多くの方々と支えあい、助けあいながら日々過ごしていると思います。育児に悩んだ時、こどもが病気で心配な時、少しでもお母さん達の手助けをしたいと思っているので、気軽に声を掛けてください。こども達には、お母さんの笑顔が一番のお薬です。私はこの先 30 周年 35 周年とかわむらこどもクリニックにいる予定なので、みなさんの笑顔をいっぱい見せてくださいね！！これからもよろしく願いいたします。 看護師長 中米由美子



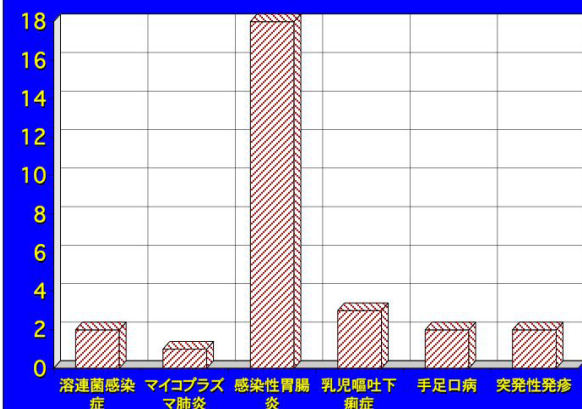
クリニック開業 25 年の中で、私は先生の背中を追いかけて 17 年になりました。いつまで追いかけても、追いつかないのは当然知っています。でも、追いかけていきたいんです（笑）。以前は仙台ではない所で小児科外来に勤めていましたが、こちらで川村先生に出会い「ここが本当の小児科だ〜」と衝撃を受けてしまったからなんでしょうね。看護師としての中米さんとの出会いもです。川村先生の生き方からまだまだ日々、学ぶ事があります。これを仕事に活かせるよう、頑張ります！！ 看護師 佐藤陽子

25 周年おめでとうございます。このクリニックで私は「すてきな出会い」をしてきました。“かわむらこどもクリニックと先生”に出会えた事は一番の大きな出会いだと思います。そして同じ時を過ごしてきたスタッフや沢山の患者さん達に出会いました。子どもを思うあまりの悲しみの涙やうれし涙を見かけた事、子供たちのたくさんの笑顔には元気をもらい、混雑時には待ち時間が長いにもかかわらず「頑張ってるね！」と声をかけてもらったり、挙げればキリがない程です… 全てはここにいるからこそ出来た「すてきな出会い」だと思っています。また、年々と忙しさが増している先生は休む暇も無いのではと思うくらい心配になってしまいますが、逆に多忙なことが先生のバイタリティなのではと思っています。私も微々たる力ではありますがクリニックに貢献していきたいと思っています。 事務主任 福地 あさか

25 周年おめでとうございます！クリニックに勤めてもうすぐ 3 年になりますが、あまり実感がわきません。最初の頃は、子どもたちと触れ合う機会が今までなかったため、どう接すればよいのか分からず、あいさつすらぎこちなかった記憶があります。悪戦苦闘の日々でしたが、今ではクリニックに入ってきたときに「〇〇くん！〇〇ちゃん！と、すぐ名前が浮かんでくるようになりました。久しぶりにきた患者さんがおしゃべりが上手になっていたり自分から話しかけてくれた時は小さな事ではありますが、とても嬉しい気持ちになっていました。そして毎日思う事は、患者さん方は先生に会うと、笑顔で帰っていくなあという事です！先生という存在が、患者さん方のパワーになっているんだなと実感しています。自分も子どもの時に、川村先生に診てもらっていたら嫌がらずに病院にいけていたのかなと今更な後悔？も、笑診療以外にもパワフルに活動する先生はみんなの元気の源です。子どもたちだけでなくお母さんたちの不安にも向き合う先生。微力ではありますが、そのお手伝いをできる事を誇りに思い、頑張っていきたいと思っています。 事務 瀬川里奈



2月の感染症の集計



皆さんもご存知のようにインフルエンザが大流行で1月は158人、先月は157人でした。今年はB型が多いのが特徴です。どうして大流行しているかはわかりません。仙台市と全国の流行状況は毎週 F.B. ページに掲載しています。例年インフルエンザが流行すると、他の感染症が目立たなくなります。先月のグラフに感染性胃腸炎を入れた理由は、ある 100 人規模の保育園で 30 名以上のロタウイルスの集団発生があったからです。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は 600 人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下の QR コードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信として Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。最新情報は FB をどうぞ。Mail News が、かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

いつのまにか 25 年になりました。よく言われる四半世紀ということ。長いといえば長く感じられるし、あっという間といえばそれまでです。こうやって続けられたのも、かかりつけ患者さんの支えのおかげです。開業の頃に生まれたお子さんは、そろそろ親になってもおかしくはありません。その当時の母親はおばあちゃんになって、親子三代で通ってくるようにもなりました。「命のつながり」はとても嬉しいことです。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！